

---

# かしましハッピートラブルトラベラー

kamome23

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

かしましハッピートラブルトラベラー

### 【Nコード】

N1387BA

### 【作者名】

kamome23

### 【あらすじ】

この高校には、変わった部活があった。

その名も“トラベラー部”

物語の始まりは、部活に入学するところから始る。

そして、初めての部活が、七大陸最高峰の一つに登頂！！？？

高校生活が、ハチャメチャなものになっていく！！

新感覚！！ 学園&冒険かしましトラベルラブコメディーの開幕

一週目 (1) 始まりは登山???

とある高校……この高校には、変わった部活があった。

その名も……トラベラー部 さて、ここいったい何をする部活なのだろうか？

物語の始まりは、入学したての少年、湊川<sup>みなとがわ</sup> 宗次朗<sup>そうじろう</sup>が偶然出会ってしまったところから始る。

春という季節は、誰もいいと思うだろう。

清々《すがすが》しく気持ちがいい天気……………

そして、桜が舞い散るなか、青春を謳歌するものだと思っていた

……………

しかし……………

なぜ？ 目の前の景色が、真っ白なのだろ…

なぜ？ ものすごく寒いのだろうか…

なぜ？ おれは……こんなスキーウェアを着て、ゴーグルをはめているのだろう……と

「こら！ しつかり歩く！！」

前から先輩の明るいう女性らしい声が聞こえた。

完全装備の防寒具を着て、後ろには、バカデカいリュックを背負っている。

こんなくそ寒い状況においても、元気な人なので驚く。

うん、すごく驚く。

「寒くて無理ですー！！」

「ふざないで！ ここをどこだと思ってるのー！！」

「ここは……」

そう、ここはアコンカグアという山らしいです。

アコンカグア、アルゼンチンにある山で、標高は6,962 m

……

大事なことなので、もう一度、標高は6,962 m……はあっ

！ ふざけんなレベル。

七大陸最高峰のうちの一つみたい。

いや、俺自身も、なんでこんなところにいるのかは、不明……いや、確かにうなづいたのだが、まさかこんなところとは……

「もっと早く行け！」

後ろからは、男の人がどなってくる。

さらにその後ろからは、完全防寒装備の5人ついてきている。

この総勢8人が、トラベラー部の部員数なのだ。

思い出せば懐かしい……

あれは、入学式の桜が降っている時期だった……

一週目 (2) 入学式の後桜が全て散っていく。

俺は、校門の前に立っていた……………  
ここは、私立盾角山たてつのやま高校。

「ここが新しい高校……………そして、俺の高校生活は、ワンダフル!!」  
新しい希望や夢がたくさんたまごはこの玉手箱。  
そんなところの前に立っている。  
いや〜今思えば、ここの高校を合格できたのは、奇跡に等しい。

この高校は、都内において五本指に数えられるぐらいなのだ。  
今思えば……………勉強の日々は忘れられない。

数々の苦境を通り超えて、俺は今ここに立っているんだ!

「そーちゃん!」

後ろから声があったので、振り返ってみると、  
そこにはブラウンの髪の毛の長い女の子がいた。

「おう! 優樹菜か」  
この子は、鳥羽とば 優樹菜ゆきな。  
顔は、結構……………いやかなり可愛い。

優樹菜とは幼稚園から、ずっと一緒に、俗にいう幼馴染。  
周囲からは、うらやましがられたりしている。  
俺にとっては、そのことが鼻に高いことの一つなのだ。

「そーちゃん？ 大丈夫？」

優樹菜がこつちに近づいて、前まで来た。

「ああ、大丈夫だ。大丈夫だ」

こんなかわい顔が近づいてくるのだが、当然のごとく胸の鼓動が速くなる。

「ふうん、それならいいけど……」

「さあ、行こうぜ」

鼓動を必死に抑えようと努力してみるが……無理。  
なので、とにかく前に全力前進していく。

「そーちゃん。まってよ」

優樹菜の声が後ろから聞こえるのだが、そんなこともお構いなしに、進んで行く。

「うわっ！」

頭が、何かにぶつかって、激しい痛みを訴える。

「いたた……」

「いったっー」

目の前には、プラチナブロンドのきれいなショートツインテールの髪型の女の子がいた。

「ごめん。大丈夫か？」

手を貸して、彼女は立ち上がる。

立ち上がってみると、背は少し低く、150？前半ぐらいの子だった。

でも顔は、可愛かった。

「何？ 私の顔を眺めて楽しい？」

見ていることを指摘されてドキッとする。

これは、決して一目ぼれのドキッではない。

「大丈夫か？ ケガないか？」

周りを見て、どこもケガはなさそうだった。

「ジロジロ見ないで」

「いやいや、俺はただ、ケガはないか見てただけだって」  
「本当？」

「本当だって」

全力で横に首を振り、違うことをアピール。

「胸が、残念だな、とか思ったんでしょ」

胸の方に視線が行き……たしかに残念だった……

「やっぱり、そう思ってたんだ！」

「違ってた、というからお前自分で言うなよ！」

このままじゃあ、埒らちがあかない。

「奏ちゃん、もうそろそろ行かないと」

周りの桜と同じ色の髪型のショートヘアの子がこっちにくる。

「あら、もうそんな時間、それなら行きましょう」

「お、おい」

さっさと行ってしまう。

何か、後味が悪い。

「そーちゃん！ ハアツハアツ」

優樹菜が走ってこっちにくる。

呼吸が少し乱れていて……おれの心も乱れているな。

「どうして走ったの？」

「いや、走りたくなっただよ。わははははあ」

つつい、笑って誤魔化してしまう。

「それならいいや」

優樹菜があっさりと引いてくれたのに感謝した。

「入学に行かないと」

「ああ、そうだな」

何事もなく、入学式が終わり、クラス発表が行われる。

「そーちゃん！ 一緒だよ！」

「ああそうだな」



ぶつきらぼくぼく言ってしまうのは、テレビと言つか何とやら・・・

そして、すぐに次の日を迎え、

「部活動紹介??」

「そう、今日の朝に説明があつて、そして昼までに絶対入らないといけないんだつて」

「絶対なのか？」

「絶対」

「そうあ……」

部活なんて、面倒くさいしな、 適当に楽できる部活でいいか。

部活動紹介の時間が始まる。

講堂に、新一年生が集まっていた。

「野球部です。今年こそベスト5を目指して頑張っています」

普通の野球のユニフォームにバットを持っている人たちが壇上で話している。

「ここは暑っ苦しいから、パス」

まったく、クソつまらん……

もっと涼しい部活がいい。

その後、クソつまらない、部活動紹介は終わって行く。

「次に、トラベラー部……えっ！ 誰もいない!？」

アナウンサーの子が、大きな声を言った後に、切れてしまう。

「トラベラー部……旅行でもするのか？」

トラベラー＝トラベル＝旅行？

まあ、一番興味があるかな？

「トラベラー部は、いないようなので、次は手芸部を」  
そのまま、流されていき。

文化系の部活紹介へと移った。

睡魔に襲われて、目を閉じてしまい……………

……………

……………

……………

「そーちゃん、起きて！ そーちゃん！」  
肩を揺らされる。

うつするらと、目を開けると、何度も見たことのある幼馴染の顔が見えた。

息が頬に当たっていく。

それも、心地よくなり、また目を閉じようとしてしまう。

「そーちゃん！」

「あわわわー！。優樹菜！ 揺らすな！」

肩を揺らされて、脳みそがシエイクさせられる。

周りを見ると、誰もいない。

「あれ、あれ？」

「あれじゃないってば、もうとっくの昔に終わってるよ」

「まじか」

今まで寝ていた事実気付くが、もう一つ、

「誰も起こしてくれなかったのかよ……………」

「仕方ないよ。私もついさっき気づいたんだから」

「ひどいな……」

もぬけの殻っていう奴で、誰もいない。

先生にすら、気づいてもらえなかったのか……

「そーちゃん、早くいかないと」

「ああ、そうだな」

講堂から出て、桜が舞い散るなか、歩き出す。

と、

桜が散る。

轟音が鳴り響く。

桜が散る。

「うるさいな」

桜が散る。

「なんなんだろう?？」

耳を閉じないといけないレベルだった。

桜が散る。

へりが1機現れる。

「へり!？」

「へりだね」

桜が散る。

へりが近づいて来て、ドアが開く。

「あの子は!？」

とても見覚えのある子がいた。

桜が散る。

「あの子は……」

「そ……ゃん……な……か……つた？」

優樹菜の声が途切れ途切れに聞こえる。

桜が散る。

「ショートツインテール……」

とつても見覚えのある顔があった。

桜が散る。

その子が、メガホンを持って叫ぶ。

「私たち!!!!!! トラベラー部です!!!!!!」

音量がでかすぎて、耳が痛い。

桜が散る。

今思えば、これがすべての始まり……

へりで現れた少女が……………

トラベラー部との始まり……………

叫びながら、桜の花びらが舞うって行く中……………

俺の新しい、青春                      部活動の始まりだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1387ba/>

---

かしましハッピートラブルトラベラー

2012年1月4日07時47分発行